夕刊
磐城新聞
一月十日發行
日曜祭日翌日休刊

學校家庭の連絡提携

宮崎義勝

一

舊臘中子女の齎し歸つた通信簿により、第二學期の成績に就て各保護者は悲歡樂觀夫々の感慨を抱いたであらうし、之を採點した各教室に於ても之と略ぼ同樣の感想が起つたであらうと思ふ。其際自分は次の樣な事を云つて見たいと思ふ

凡そ兒童教育に於ける學校と家庭との關係は、車の兩輪の如く兩者互に連絡協調して教育の實際にあたるのでなくては到底その實績を擧げることは出來るものではない

教師は兒童の家庭及びその家庭の中に生活する兒童の實體を了知し、兒童の教養、訓練實施の基礎となし個性に應じ環境に即せる訓育をなすことに努力し、一般父兄は學校及び學級人として社會的共同生活を營む子弟の實體を了知し互に協調して多方面的考慮の上に之が實踐指導に努むるのでなければその效果は容易に望み得るものではない

×

次に學校全般としての連絡提携と學級としての連絡提携について述べて見たいと思ふ

一、學校全般として

A保護者總會……年一回開催し授業參觀懇談會、講演會等

B學級懇談會……毎學期末一回特定日を定めて特に父兄を召集し各學級毎に開催

C父兄召集……兒童教養上必要に應じ隨時父兄の來校を求めて談合をなす

D家庭訪問……擔任兒童につき必ず一度は、訪問してその家庭狀況を了知する外病氣其他必要に應じて行ふのである

E學校と家庭發行……保護者と協力し學校經營の方針及び狀況と教育意見、感想、保護者の言葉、兒童文をのせ相互連絡の資に供する

F成績回覽……學校長が期日を定めて何れの科目を考査して回覽するか發表して行ふ。現在までの科目は圖畫、書方、算術讀方を主としてゐる

G展覽會

R運動會、音樂會

二、各學級として

A尋常第一學年

長女朋子在校實驗科學誤傷兩眼就井上國手兎失明賦示　珠雲　小野務

憂病由來父母情
忽聞奇禍夢魂驚
唯欣國手通神術
復見乾坤日月明

ふくろ　ふくゐ・たろう

あすは天氣か
ふくろが啼いた
お宮の森の杉の木で
のりつけほらせと
二た聲ないた

月三題　茂木紅梅

窓邊より煌々として月明り
雨はれて月の明るきゑんの先
雨の音いつしか止みて月明り

初霜

初しものはだの寒さや秋のあさ

拈華微笑

其儘舊正月へチエンヂの心算か、一松二正らしく門松がそちこちに殘つて居る

0

平館の町廻りに先頭を承はり、笛太鼓に合せて浮き腰の足拍子を取つて行く旗昇ぎの吉田さん。舊歲末らしい點景だ、風が今日も亦いやに冷やつこい

1月11日

△秩父より銅の献上あり和銅と改元（和銅元）△幕府金銀銅の輸出を制限す（正德五）△伊能忠敬歩る（延享二）△本縣四十隻の機船底曳網漁石巻根據進出不許可となる（昭和九）

磐城歌壇

新妻久滿男選

『新年の雪』湯本　奈賀登壽子
○新玉の年の始の白雪は、豐なる代のしるしなりけり

『新年所感』（類歌極めて多し）
○あたらしき年を迎へて健かに、此の一歲もすごしてしがな

『門松』
○あらたまの年たちかへりうららかに、朝日まばゆき門々の松

『元旦』三丁目　すま子
○立のぼるけぶりもゆたかとよまはま、八重雲わけて日は照りそめり

講談

黃金魔刄 (46)

高桑義生作　樋口悅也畫

噂（八）

『いふまでもねえ、あの晩だ』

と快傳は聲をおとした

下座では、頭目たちとは關係なしに話し出した。それで快傳は、話の順序として芳春寮に忍びこんで地下の密室にお染をさぐり當てた顚末を語つた

『どうしてそんな密室にゐるのか、第一の不思議です。しかも眞夜中に起きてゐて娘は泣いてゐる。それも尋常の樣子ぢやねわ、何かから息も出來ないやうな重くるしい。凄いやうな氣持がするのだ。實際わつしは今まであんな恐しい嫌な氣持になつたのは、はじめてだ。すると。老女がなにかいひ出した。この年寄は、からすのやうなまつ黑な服裝で妙に不吉な氣がした。それは陰氣なしやがれッ聲なのだ。娘は何ともいへねえ悲しい聲ですゝり泣きをはじめたが、そのうちに思ひ詰めたやうに死にたい——といつたと思ふ。と、いきなり顏をあげたのだ。まつたく繪にかいたやうなあでやかな姿で、つやつやした髮をつくり物のやうな綺麗な結綿に結つて、まつ白な珠のやうは襟脚だつたんだからなあ、どんな美しい顏かと胸がドキドキしたくらゐだが、それが……』

快傳はゴクリと唾をのんだ

『目も鼻もないのツぺらぼうか』

と火柱がいつた

『ばかな、ばけ物といつたつて、そんなものぢやねわ、もつと、もつと凄い……』

『どんなのだ？　早く聞かせてくれ』

『ま、待つてくれ。殘念ながらはつきりといへねえ。といふのは、その時スウッと行燈が吸はれるやうに消えちまつた……』

『ウーム』

『あッと驚いた拍子に向うの灯りが消えた。おれは無中で逃げ出したが、氣取られたのぢやねわかと思つた——だが、よしんばそんな事が起らなくても、おれは逃げ出したに違えねえ、一刻もゐたゝまれねえ氣持だつたんだ行燈が消えたのは油でも切れたのだらう。何の事もなかつたから……だがおれはあとから追つ驅けられるやうな氣持で、もとの處へ來てさつきおれを下した板の上に乘ッかると、こいつがいゝあんばいにツゥッと上つて、例の鏡のうらに來た、それはよかつたが困つたのには鏡がうまく開かねわ、そのまゝ閉ぢこめられちまつたら、とうに暗い處へ行つてるわけだが、まだ運があると見えて助かつた。で、すつかり手間取つて出て見るとみんな引き上げたあとといふ次第だ。

そこで一件の顏なんだが、ひと目でも見た事だからまるつきりわからねえ筈はねえ。だが人間の目なんてものは案外あてにならねわものだといふ事がわつしはつくづくわかつたんだ、どうして考へてもはつきりまとまつて浮んで來ねわ。たゞ何ともいへねえもの凄い顏だつたと思ふばかり、あんまり意外だつたんだ、あッと驚いて眼がくらんじまつたのだ。わつしのいふ事に爪のあか程も嘘はねわ。しかし人は本當にしねえかも知れねえ。夢でも見たんぢやねえか、さもなけりやア、つくり事だといはれるだらうそれが嫌さに、今日まで默つてゐたんだが——。夢でもねわ、幻でもねえ、間違ひなくこの目で見た眞實なんだ。世間で類のねえ別嬪——實はそれが島原屋の娘の正體なんだ。わしも一時は氣の迷ひかと、自分を疑つて見たが、決してさうぢやねえのです。それからいろいろ手段をめぐらしてお染の容をさぐつて見ると怪しい事ばかり。なるほど十二三までのお染を知つてゐる者はたくさんある、その頃は實際いゝきりやうで年頃になつたらさぞかしと思はれたらしいが、それから先はほんとうにお染を見てゐる者はねわ、まつたく噂ばかりのお染なんだ。昔の美しい幻、今はばけものになつてる事を知らねえ、世間には大切な一人娘、虫にも食はせねわ箱入娘、島原屋が惜しんで人に見せねえと、まるで天女の再來かなんぞのやうに——見たやうな容をいふ者は大嘘よ。手前で勝手な幻をこしらへてしまつたんだ……』

童話　サアベル　三

阿部賴俊

『このわんぱく小僧二人とも、ふるへてゐるな』

とお巡りさんが面白さうに笑つてゐますので、二人ははやつと安心出來ました。

『わんぱく小僧！いいものやらう。だから、これからは惡さをしてはいけないぞ！』

と、お巡りさんは、きれいな玩具のサアベルを、二人にわたして、ニコニコしてゐました。そのやさしい笑ひ顏を見ると、信太と市郎は一ぺんにこのお巡さんを、好きになつてしまひました。そして、もらつたサアベルを、スラッとぬきますと、二人は思はず大きな聲をはりあげて

『敬禮！』

といつて、お巡りさんに氣をつけをして小つちやな兵たいのやうに、目をパチパチさせながら、敬禮をしました

『わアッ！』

と、お巡りさんは、小山の樣なおなかを、ゆるがして笑ひながら、やつでの葉のやうな大きな手で、信太と市郎の頭をクルクルとなでて

デブリデブリと、長いサアベルを、夕やけにピカピカ光らしながら、町かどをまがつて、消えてゆきました

信太と市郎は、その黑い影の見えなくなるまで、サアベルをふりふり

『お巡りさん、ばんざい、ばんざい！』

と叫びつづけました

（をはり）

廣告

下痢病妙藥ヲ御紹介致シマス
天下一品散
平町ネヅミ坂角
特約店　桑原商店
『取次販賣需ニ應ズ』

新田町
榮ちやんのしろうど料理
天下一品不味い
榮ちやんのおでん

前田醫院
院長　前田清美
植田町電話一二四

磐城名物
靈峰羊羹
小川郷驛前
平屋寶店

一、紫山流盤景教授
現代的
修得短期
經費低廉
一、材料器具が安く何回でも使はれる。
一、練習二三回の初心者の作品でも直に床の間を飾るに充分である。
一、一週間一回六ヶ月で修業出來る。
一、繪畫の素養全く無き老若男女どなたにも習得出來る。
紫山流盤景師範　高橋光山
平町白銀町
電話六三八番

至急募集
營業擴張の爲
中仕。四、五人
年令二十歲より三十四五歲迄。身體健康にして月收卅圓位
御希望の方は至急御來談下さい
平町田町大通り
金二清宮運送店

茶道　裏千家
華道　木生流　小原派
格花
盛花、瓶花
教授いたします……。
稽古日は
茶道…月六回　一、六日
華道…毎週土曜日
場所平町字二丁目常陽銀行横　地球堂書店内
裏千家　木生流　小原流
比佐宗弘

新春家庭の必需品
大特價大賣出し
・御屠蘇具　屠蘇散景品附　宣傳品出し
・神具　神棚三寶神具一式各種陳列
・歲末、年始御贈答品
・新年用、食器各種
・御家庭用品大歲の市
・御贈答に便利な商品券
・御婚禮調度品　タンス、鏡台、針箱其他一式大安賣
漆器、家具　神具、佛具　文具、雜貨　卸商
平町二丁目
近江屋
電話七一一番

平町田町
高久病院
（電話五三一番）
醫學士　高久忠
新潟醫學士　赤羽清
藥劑士　佐竹衛雄
内科　小兒科　外科　花柳病科　耳鼻咽喉科　レントゲン科

入院隨意（自炊の便あり）
外科專門
X光線科
平南町
上田醫院
病室完備
（電話一二九）

產科　婦人科　外科　藥局
院長　木村寅次郎
醫學博士　内木宗八
藥劑師　大岩俊雄
平町新川町十九番地
入院隨意　病室完備
木村病院
電話一六四番

耳鼻咽喉科專門
高柳醫院
平驛前（電三三六）
醫學博士　高柳博明
（入院應需　自炊ノ便アリ）

時代の要求皆樣の足！！
尼子タクシーへも
豆タクが入りました。
御玄關から玄關へ…迅速簡便
是非御利用を……。
市內…三〇錢　市外…四割引
流線型セダン、大型貸切バス
宮行＝直通は二丁目尼子自動車部より發車いたします。
平町二丁目
尼子自動車商會
電話六四〇番

妙藥　コデス
百日咳
小兒痰咳
小兒氣管支カタル
平町田町
阿部藥舖

開院
五十嵐產科婦人科醫院
平町新川町一二
醫學博士　五十嵐雄二
電話三七〇番
（入院應需）

他三村が同意せば後の事は問題で無い

―好間、內郷の合併反對表明に平側の肚裏を語る青沼町長―

市制準備は進む

好間、內郷二村の反對に交渉上一頓挫を來した關係から新局面を見出さんとする市制施行委員會は昨九日午後から開かれ舊冬交渉した經過に基き種々協議した結果、明十一日午後一時から開かれる部長會に一任今後の交渉方針を樹立する事となつた、右に關し青沼町長は語る

二村は他三村の全村合併に對し部落合併に止めるた程度で最初から當てにはして居らないので他三村さへ承諾すれば直ちに市制實施に着手する、さきに實施した石卷は約四ヶ月で準備から實施に進んで居り、內務省の手續きもせい〳〵半年位ですむ、云々

養蠶特定指導組合經營座談會

十三日平取締支所で開催

本縣に養蠶特定指導組合を設けて以來既に三ヶ年になるが、この際縣蠶糸課に於ては縣下二千六百の養蠶實行組合を傘下に集め活動の促進を圖るべく施設の改廢指導の徹底を目標に縣下十三ヶ所に特定組合を中心とせる幹部組合員の組合經營研究懇談會を開催

一、特定指導組合の特性に就て
二、特定組合の改善實績に就て
三、昭和十年度實態調查施行に就て
四、昭和十一年度事業施行に就て

の諸事項を討議し活模範を示して圓滑なる進展を圖ることになつたが濱通り中郡內の分は此の十三日平支所に縣技師臨席の下に開かれる

學窓を巢立つて愈々職業戰線へ

兒童の幹旋に乘氣の紹介所

「螢の光」の歌とともにこの春郡內の小學校を巢立つ少年、少女のうち雄々しくも社會の荒浪に直面する就職戰線への門出は涙ぐましいほどだ

平職業紹介所では早くもこれら兒童のため郡內各小學校と連絡をとり今月末迄希望職業を附記した就職兒豫定數の提出によつて本格的活動に移るべく目下準備を進めてゐるが昨春同所で幹旋した數は濱三郡及田村の一部からの希望者百五十餘名中九十名で東京方面には二十名を送つてゐる最近の軍需インフレ景氣から鐵工方面を志すものが急激に增加して居り、今年も恐らくこの方面の志望者が最多を占めるものと思はれる、幹旋準備を前にして同所の話

町の商人も今年の景氣はよいと云つてゐる、景氣がよければ求人口も殖ゑ從つて就職率も多くなる兒童の幹旋については從來個性指導で來たが、今後は兒童の長所をいく通りも見出して一つの就職口にこだはらず適當の方面に向ける陶冶指導で進む事となつた、要は兒童の希望によつて求人口を開拓しなければならない緣故節をたよつての就職は個性もわきまへないから失敗が多いものだ、云々

新米の出廻から出荷が激增

あす俵米共販

石城販利組合の俵米共同販賣は明十一日行はれる、出荷は愈々新米の出廻りを來して從來百俵足らずだつたのが今回は六百八十俵、相場も前回値の保合ひからそれ以上を豫想されてゐる

濱通りの三百餘名にけふ選肅指導者講習

畠田警察部長、中央聯盟委員等臨席 座談會後實施事項を打合す

今春中行はれる總選擧を前にして縣では今十日午前十時から平第三小學校に濱三郡肅正指導者養成講習會を開催した、參會者は各町村長を初めとして三百餘名、縣から出張の畠田警察部長、髙井視學官、並に中央聯盟市川委員から夫々講演、訓話あり午後からは既報の座談會其他實施事項の開催方法に就ての講習あり、三時會を閉ぢた

寒稽古 各校で開始

寒さも愈々本格化し各方面で寒稽古の準備を計劃中だが平第一校では明十一日から二週間尋常五年以上の劍道部員を三班に分ち朝及び午後の二回に、磐中、平商では十三日の月曜から行ことになつた

海軍兵試驗 平から十九名

石城郡內の海軍志願兵採用試驗は既報の如く來月二十八、九、三月一日の三日間平第三小學校で行ふが平町の受驗者は十九名で昨年に比し六名の增

平水道委員會 十一日午前十一時から開き十一年度豫算に就て協議するが繼續工事のみで新規事業はないと

凶作對策追加工事 總額一萬五千圓

平土木監督所に於ける凶作對策追加縣工事は此程開かれた縣會で一萬五千餘圓に決定、今十日同所に指令あつた 三阪、石住、澤渡の山間部の道路、橋梁等である

平町肅正委員會

平町では來る十四日午前十時から町會議事堂で衆議院議員選擧肅正に關し委員會を開く

勇敢な街の捕吏

煙草屋荒しを搦めとつた兩氏を近く表彰か

十日午前四時半頃、平町南町煙草商人見謙藏方に一名の賊忍び込み小供用オーバー（價格四圓）と帽子黑革靴等を竊取した上陳列戶棚にあつた煙草に手をつけんとしてガラスを破壞した音に主人が發見、誰何され矢庭に逃走したので附近の料理業旭屋主人と追跡路上で格鬪の末取押えた

住居不定無職熊谷茂（四三）と云ひ目下餘罪追究中勇敢な街の探偵兩氏は近く平署長から表彰される筈

○。○。○。**入山校學藝會** 湯本町入山小學校では來廿四日（舊元日）兒童學藝會を催すが千二百五十名の生徒を擁すだけに盛會を豫想さる

農事講習會

石城郡農會では養鷄、畜產、副業、肥料、農業、經營等に關し左の日割で講習會を開催

△養鷄二月八日、九日△畜產（主として小動物）同十日より三日間△副業同十三日△肥料同十八、十九の兩日△農業經營同廿七日

平青年分團新役員

平町各青年分團中年分團の更迭を行つたもの左の如し

鎌田―團長古川信次 副同高田淸二 月見町―小泉五郎 根本重也 白銀町―大森寅二 大塚八郎 二丁目―中野勇雄 田卷寶三

磐東銀行株主總會

植田町磐東銀行株主總會を二十日午前九時から開く配當年二分四厘

入山女青總會

入山女子青年團では今十日午後一時から入山小學校に總會を開き郡聯合本部から佐竹平第二訓導その他を招き流行歌謠曲新作舞曲の講習を行ひ、了つて加留多會を催した

小學校書初展

平町各小學校では今十日より四日間校內に書初展覽會を開き一般にも公開する

高月學園の今昔

磐中同窓會交歡また聽記 （3） ―赤井嶽男―

（第二回吉田金作氏の續き）

野球の吉田か吉田の野球か蓋し鷄が先か卵が先きかの問題であるが、兎もあれ野球人としての吉田氏を語るには、當時の磐中野球陣營を眺めるもまた必要且つ興味のある事であらう

――一体その頃野球選手は各級にあつたが他校との試合なんて事は全然無かつた 捕手は素面、僅かにミットがあつた丈けで一壘手にすらグローヴなんて品物は無く其れ以外が素手であつた事は云ふ迄もない、隨つてスパイク・ストッキングなんて物が無かつた許りか襤褸足袋さへ穿かず裸足で球場を驅け廻つたんだから凄まじなんど云ふべからずであつた

◇

吉田氏の項で一寸傍道へ入る樣だが、斯して當時裸足で原始人の樣にカチグリのグラウンドを驅け廻つた物凄い連中には前揭の如くファストの片山義治豫備海軍中佐、セカンドの酒井源治陸軍步兵少尉（日露役に戰死）センターの花澤由長故陸軍々醫。更に第一回生のそれを見るとキャッチ瀧德也陸軍步兵中尉、ファスト會田常次海軍々醫少將、レフト猪瀨乙彥豫備海軍大佐等、等、武張つた方面に進んだのが多いのも一奇と云ふべきである

◇

當時紅顔のショートストップ吉田氏が永い間僅かに姑息なデッキゴルフ位に悶々の情を慰やして居た海上生活から陸の人となつたのが數年前の事、故山平町に高臥の身となるや、懷ひ出の揚土臺に豪快な野球選手時代を偲んでは矢も楯も溜らず知命を出でて尚ほ磐陽野球協會の最も信賴すべき大先輩として飯より好きな斯の道にホルモン常用以上の若返り法を縮けてゐるなど世にも愉快な事ではある

◇

先年來大平町の眞面目な所謂研究會に屬し、新興躍進の町政に參與して居るが彼の雲煙萬里の大洋を征服して苟も寸毫の過誤迹算が無かつた名キアプテン時代以上に、幾多の暖寒潮が交錯底流する平町會の分野に起つてその去就宜しきを得る樣自重加餐を祈つて此の項を終る

危機一髮も少しの處で附近が木葉微塵！

勿來火藥庫爆破事件檢證

勿來町酒井字出藏大日本炭礦勿來坑火藥庫爆破未遂事件犯人同坑飯場雜役夫茨城縣久慈郡大子町生れ龜太郎長男前科二犯增山親治（三二）は昨報の如く犯行一切を自白して昨九日一件書類を送檢されたが、平檢事局氏家檢事、馬上書記は今十日現場に出張、實地檢證を行つた

現場は僅かに一町餘を距てて坑夫長屋が約三十戸あり、又約二町で礦務所があり萬一見込通りにゆけば庫內のダイ七千六百本が炸裂して附近は木葉微塵となる處であつた

適齡者注意

十一年度徵兵適齡者は大正四年十二月二日から五年十二月一日迄生れのもの、入寄留者で平町での受檢者は今月末迄福島縣兵事官宛寄留地受檢通常願を町役場に提出されたいと

十名を乘せたバス（泉―小名濱間）火を吐く

直に消し止め一同無事

八日午後三時頃泉村大平自動車部のバスを運轉手齊藤淸（三二）が運轉、泉から乘客十名を乘せて小名濱町へ來る途中同村瀧尻地內で漏電からガソリンに延火、俄然發火したので乘客は大騷ぎ、漸く運轉手と助手が身の危險を冒し消し止めたので事なきを得た

トロと衝突

夏井川の改修人夫全治三週間の負傷

下小川村大字下小川農鈴木政中（二八）は昨九日午前十一時頃平窪村字寺內地內夏井川改修工事場に出役中疾走して來たトロが衝突轉倒して顔面頭部に全治三週間の大怪我を負ひ目下平町新川町木村病院に入院加療中である

黃昏の濱に迷ひ子

海に憧れて家出と判明 けふ內鄉の親許渡し

昨夕小名濱町海岸地內にて搜して泣き步く迷子あるを平署員が調べると云ふ案外內鄉村に父がゐるので鈴木自動車部の車で本署に送り調べた處、右は內鄉村綴、物品鮮魚松山本助（四三）三男三郎（八）と判明、今朝親許へ

三ちやんは最近內鄉にひつ越して來たが一度も海を見た事がないので昨日正午頃家を飛び出し乘合に只乘りして小名濱へ行き海を眺めてゐる中何時の間にか日が暮れて此の始末

○。○。○。**石炭試掘許可** 鎌倉町敷江合名會社出願に係る平窪、神谷、草野三村に跨る九十五萬千五百坪の石炭試掘は此程許可になつた

特許ドンコ帳簿 諸帳簿 複寫便箋。仕切
㊫ 魁文堂 電話313番

十一日 （小名濱測候所調査）

日出 六、四七 月出後 七、一五
日沒 四、四二 月沒前 八、〇五
滿潮前六、一〇 干潮前一一、三〇
後四、四〇 後一一、五五

舊十二月十七日 土曜 壬辰 佛滅 平 氐宿 新一月十一日

判定總鑑 東京市本鄉區湯島四丁目五番地 高島易斷總本部 神誠館

▲一白 新しき事に手を出す時は後日に悔あるべし▲二黑 內を調ふるを先にせば外は自ら順に行くべし▲三碧 一時的利よくに心をかられば大敗を招くべし▲四綠 獨立にて事を企つれば仕損じ多し他に從へよ▲五黃 事の半ばにして深き迷ひに入り敗を招く日▲六白 人の言ふことに氣を奪はれぬ樣すれば安全▲七赤 內も外も喜き日婚約企業開店普請何れも吉▲八白 平穩の如くにて內に陰鬱の氣のひそみ居る日▲九紫 目上の引立てある吉日思はざる福も入來る

廣告

木村外科醫院 平町六丁目 電話三〇九番

安齋外科醫院 平町田町 電四七五番

大和田醫院 平町南町 電話一七〇番

井坂產婦人科醫院 平町田町 電話五五九番

冬の通學服賣出

中等生用

國防色	6號	...... 4.00
	7號	...... 4.20
黑小倉	特A6號	...... 3.80 ヨリ
	A 6號	...... 3.50 ヨリ
	B 6號	...... 2.00 ヨリ
別注文	國防色	...... 5.50 均一
	黑小倉	...... 6.20 均一

ふかや洋服店 平三 電203

贈答物に 鰹節 鹽鮭

日華生命保險株式會社平代理店

宍戸屋商店 平町四丁目 電話（鹽干部）二一五番 （鮮魚部）四〇七番

食事、喫茶、酒場を兼ねた

冬のサロン

男給の店

平・田町・電三五二

電話新設 六三二番

是非御利用を願ます。

田每食堂 平町田町藤田女學校隣

延淨院送葬の際は遠路の處御會葬被下且つ御鄭重なる御香奠を賜はり厚く御禮申上候、乍略儀以紙上御挨拶申上候

一月十日

三井榮一
三井富吉
外親戚一同